

# 高齢者虐待の問題について

松本 敏夫議員

・質問 次の点について伺いたい。

ひとり暮らし高齢者の人数と施設入所者の人数について  
高齢者虐待の通報件数とその対策、指導について  
受け入れ施設の整備を含めた高齢者虐待に対する防止策について

・答弁(市民福祉部長)

六十五歳以上のひとり暮らし高齢者は、現在六百五十二名であり、平成十一年当時の四百九十七名から五年間で約三十一%増加している。  
また、養護老人ホーム、特別養護老人ホームへの入所者も平成十一年の百七十五名に

比べ、本年度は百九十六名と約十%増加している。

平成十五年度の通報件数は三件であり、民生委員からの相談が二件、本人からの通報が一件であった。

それらの対応については、民生委員、家族、ケアマネージャー等を交え相談を行い、施設入所や在宅福祉サービスの利用等を行っているところである。

今後の対応についても、担当職員による実態把握、家族や関係機関との調整を行うこ

とにより、問題の解決を図っていききたい。

施設面については、介護保険計画に基づき基盤整備を行っているところである。

平成十七年度には、特別養護老人ホームのベッド数が二百十床となり、平成十九年度の目標数値を達成することになり、高齢者の受け入れについて当面対応できるものと考えている。

また、高齢者虐待の防止策については、現在、在宅生活者の虐待を防止するための

ネットワークづくりを進めているところである。

具体的には、本年四月に設置した高齢者総合支援センターを虐待についての相談窓口として位置づけ、関係機関からの情報を受けるとともに、市主催の地域ケア会議や各団体の会議の機会をとらえて、虐待の防止や早期発見について啓蒙を行っていききたいと考えている。

加えて、高齢者施設内虐待についても、今後予防策を検討していききたい。

# 商業と中心市街地活性化について

藤倉 宗義議員

・質問 次の点について伺いたい。

中心市街地活性化のためのこれまでの取り組みについて  
中心市街地に福祉施設をつくるなど、高齢者等の弱者が安心して暮らせるまちづくりを推進すべきと考えるが、見解は。

・答弁(市長)

出店が予定されているイオンモールの集客を中心市街地活性化のために活用する施策についての見解は。  
中心市街地活性化のための施策として、その核としての市民プラザの設置、中心市街地活性化計画の策定、TMO

の推進、商店街空き店舗対策モデル事業、チャレンジシヨップ事業などを実施し、行政として必要な基盤整備を行ってきたが、空き店舗解消などの抜本的な対策は見出せない状況である。

主だった公共施設や福祉施設が郊外に移転、建設される状況は、羽生市も例外ではなく、中心市街地活性化のためには、こういった施設を羽生の中心部に戻すということを考えていかなければならないと感じている。その思いのな

かで、市民プラザをつくり、商工課を移転させたところである。

今後は、時間がかかっても福祉施設、ふれあいサロン、子育て支援施設などをもう一度市街地に戻さなければならぬという思いがしている。

イオンの集客力を中心市街地活性化のために、有効に活用することは、羽生市にとって大きな課題であると考えている。

地域の共同ブースをつくる。あるいは、市の紹介コーナー、

イオンから地元商店街への巡回バスの運行、そういった方法を今後、商店街との話し合いやイオンとの折衝のなかで詰めていききたいと考えている。そして、中心市街地に集客を諮ると同時に、魅力ある商店街づくり、魅力ある商店街づくりなど、新たな視点でもう一度見直していかなければならないと考えている。

## その他の質問

・駅の駐輪場整備について  
・おれおれ詐欺対策について